第28回

清月記SPECIAL対談

柳谷理花さんが語る「女性の生き方」

オリジナルの、世界に一つのウェディングドレスや記憶にいつまでも刻まれるウェディングプランをてがける、「スプランディッド　ブランシュ」の代表として仙台で活躍する柳谷理花さん。その原点をお聞きしました。

「手作り弁当をぜひ作ってほしい」

菅原　裕典
すがわら・ひろのり
1960年宮城県塩釜市生まれ。83年東北学院大学経済学部経済学科卒業。83年名古屋・中京葬儀社入社。85年3月、父・清一とともにすがわら葬儀社設立。89年仙台メモリアルサービス設立、社長就任。2000年エポックせんだい設立、社長就任。01年社会福祉法人無量壽会理事長就任。01年せんだい泉エフエム放送取締役。01年㈱清月記社長就任。10年宮城学院中学校・高等学校父母教師会会長就任。

「東京のバスガイドの厳しい訓練が原点です」

菅原　柳谷さんは、青森のご出身。青森といえば青森ねぶた祭ですね。

柳谷　青森では、小学生のときにねぶたの笛の吹き方などを教えられますし、ハネトとして参加するのも大好きでした。踊るのが大好きなので、仙台の雀踊りにももちろん出ています。

菅原　小さな時から、洋裁などに興味を持ってらっしゃったのですか。

柳谷　私は祖母に育てられたのですが、その祖母がとても手先が器用な方で、側で洋裁をする姿を見ていました。デパートなどのディスプレイしている洋服をみて、同じように新聞紙で型紙をその日のうちに作り、次の日には仕上げていました。料理もとても上手でした。その祖母のDNAなのだと思います。

菅原　まるでNHK連続テレビ小説の「べっぴんさん」のようです。私も見ていますが、思わず涙が出てきますね。高校卒業後は、東京でバスガイドさんもやってらっしゃったのですね。

柳谷　はい、2年間ですが、寮生活で朝もとても早く厳しかったのですが、楽しくて、今の私の原点になっているのだと思います。新人研修の訓練のおかげで人前で話すことが平気になりましたし、さまざまな場所で講師なども行っていますので、話し方や顔の表情など、役に立っています。

菅原　仙台に来られたきっかけは。

柳谷　バスガイドの東北観光研修で仙台に来たときが最初なのです。そのとき、ミスTBSフローラルというラジオやテレビのレポーターの募集を知りまして、それに合格してしまったのです。育てられた祖母のおかげでものづくりが大好きだったので洋裁も習おうと、宮城ドレスメーカー専門学校にも入学して、勉強もスタートさせました。

その後は、いろいろな業種のアルバイトなどもしながらモデルクラブに所属して活動していました。東北創刊号ゼクシィの1期生にも選ばれ、ゼクシィモデルとして、数多くのウェディングドレスを実際に着こなしました。

菅原　最初からウェディングドレスの仕事に携わろうと思っていたのですか。

柳谷　バスガイド時代の貯金をはたいて友人たちと、ローマやパリなどヨーロッパ旅行に行き、美術館やドレスなどに触れ、自分の美に対する本来求めていた感覚を覚醒されたのです。その後、仙台のウェディングプロデュース会社に入社して、オーダードレス店の店長やプロデュースも任され、12年前の2005年に独立しました

菅原　スプランディッドブランシュという名前ですが、どのような意味なのですか。

柳谷　華麗な白という意味です。生まれたときに白い産着で包まれ、七五三でもよく白を使いますし、一生に一度の大切なウェディングドレスにも白を基調にしようという思いを込めています。

菅原　たしかイギリス王妃のダイアナ妃の結婚式で、白のウェディングドレスが世界的ブームになりました。白のオリジナルウェディングドレスを広めたいですね。ドレスの市場はどうなのですか。

柳谷　日本の着物でという方もいらっしゃいますが、自分だけのオリジナルドレスで結婚式をしたいという方がこの2～3年増えてきました。

菅原　当社では関連事業として、完全オリジナルデザインの結婚式を叶えるウェディングレストランのメゾンドリア・フィーユを昨年秋に仙台市青葉区一番町にオープンしました。ここで柳谷さんとコラボレーションするのも面白いですね。

柳谷　ありがとうございます。来年八木山ベニーランドが開業50周年を迎えるのですが、50周年記念ウェディング企画を一緒に進めています。

菅原　ご葬儀でも同じですが、結婚式も昔と大きく変わりました。昔は家と家の見栄えが優先して、参加、参列する人数を競ったり、人に見せる時代から、自分たちが満足して、参加される人と思いを共有したいという時代になっています。自分が納得する、本物の時代になりました。

東京のバスガイド時代。デビュー前の新人研修で。「貴重な一枚なんです」

ゼクシィモデル公募オーディションで。左から2番目が柳谷さん

清月記本社で

柳谷　理花さん
やなぎや・りか

1970年(昭和45年)2月1日、青森市生まれ。青森商業高校卒業後、東京でバス会社に就職、関東の観光地などを中心にバスガイドとして2年間活躍。

●1991年バスガイドの研修で来仙したときに、ラジオ・テレビのレポーターのミスTBSフローラルに合格、同時に宮城ドレスメーカー専門学校に入学。モデルクラブに所属しながら色々な業種のアルバイトをこなす。東北創刊号ゼクシィの1期生となり、数多くのウェディングドレスを実際に着こなす。

●仙台のブライダルサロンでオーダードレスやウェディングプランニングに携わり、2005年立ち振る舞いを含めたトータルコーディネートのスプランディッド・ブランシュを設立する。

●手作りの素晴らしさを伝えるため、児童館などでの手芸教室などのボランティア活動も行っている。仙台商工会議所女性会会員。

ウェディング業界は、ジミ婚という言葉を払拭して、新しい今のウェディングの流れを作りましたね。

「夢と希望が味わえる会社にしていきたい」

柳谷　さまざまな場所で、一生に一度の大切な結婚式をプロデュースして、ドレスも心を込めたものを花嫁さんと一緒に、もちろん結婚式だけでなく、銀婚式、金婚式でもドレスを着てもらいたいと思っています。そして、夢と希望が味わえる会社にしていきたいと思っています。

ひと針ひと針、丹精を込めてウェディングドレスを作り上げていく作業は柳谷さんならでは

子どもたちに手作りの素晴らしさを伝えようと、児童館で手芸教室などのボランティア活動も

菅原　最後に女性のためにメッセージをお願いします。

柳谷　私の会社では、スタッフの皆さんに、必ず弁当を自分で作ってくるようにお願いしています。お弁当に、詰め方やカラーなど本人の感性が表れると思っています。そのお弁当を私が見て、色使いなど、その方の不足している部分も教えてあげることが多いのです。

菅原　面白い発想ですね。とても勉強になりました。今後もご活躍を期待しております。

完全予約制・貸切プライベートレストラン
「メゾン ド リア・フィーユ」
結婚式やさまざまなパーティーやご宴会に・・・
・結婚式・レセプションパーティー・古希の祝い・謝恩会・結婚記念日・誕生日会
・社行事（入社式・周年行事・歓送迎会・忘新年会）パーティ人数 着席5名～80名、立食少人数～120名

貸切パーティーのご予約は下記までお問合せください
完全予約制 TEL：022-714-1122
https://www.ria-feuille.jp/mdr/
仙台市青葉区一番町2-7-12 グリーンウッド仙台一番町ビル2F（火曜日定休）
清月記グループ